



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2025年  
No.2  
事例1

疑義照会・処方医への情報提供

## 投与量



### 事例

#### 【事例の詳細】

エリキウス錠5mg 1回1錠1日2回を継続服用している、非弁膜症性心房細動の患者の処方箋を応需した。前回来局時から今回までの間に、患者は80歳になっていた。薬剤師が患者に気になる症状がないか確認したところ、紫斑が出現していることを聴取した。さらに、現在の体重は42kgであること、血清クレアチニン値は0.66mg/dLであることを確認した。患者の年齢および体重が、エリキウス錠の減量基準に該当するため、処方医へ疑義照会を行った結果、エリキウス錠2.5mg 1回1錠1日2回に減量になった。

#### 【推定される要因】

主治医は、患者の年齢と体重が変化したことにより、エリキウス錠の減量基準に該当していることに気付かなかった。

#### 【薬局での取り組み】

エリキウス錠が処方されている患者の年齢・体重・腎機能の検査結果を継続的に確認する。



### その他の情報

#### エリキウス錠2.5mg/5mgの添付文書 2024年7月改訂(第6版)(一部抜粋)

##### 7.用法及び用量に関連する注意

<非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制>

7.1 次の基準の2つ以上に該当する患者は、出血のリスクが高く、本剤の血中濃度が上昇するおそれがあるため、1回2.5mg 1日2回経口投与する。

- ・80歳以上
- ・体重60kg以下
- ・血清クレアチニン1.5mg/dL以上

##### 9.特定の背景を有する患者に関する注意

##### 9.8 高齢者

一般に腎機能が低下し本剤の血中濃度が上昇するおそれがある。非弁膜症性心房細動患者に対して本剤を投与する場合、特に80歳以上の患者に対しては、腎機能低下(血清クレアチニン1.5mg/dL以上)及び体重(60kg以下)に応じて本剤を減量すること。



### 事例のポイント

- 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中および全身性塞栓症の発症抑制を目的にエリキウス錠を使用する場合には、減量基準がある。処方監査を行う際は、用量が標準的であるか確認するだけでなく、患者の状態が減量基準に該当しないかについても確認する必要がある。
- 高齢者は一般に腎機能が低下し、エリキウス錠の血中濃度が上昇するおそれがあるため、特に注意して用量の確認を行うことが重要である。
- 患者に初めてエリキウス錠が処方された時に減量基準に該当していなくても、服用を継続している間に患者の年齢や体重、腎機能が変化し、減量基準に該当することがある。薬剤師は、エリキウス錠を服用している患者の年齢や体重、腎機能の変化を定期的に把握することが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281 (直通) FAX：03-5217-0253 (直通)  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。